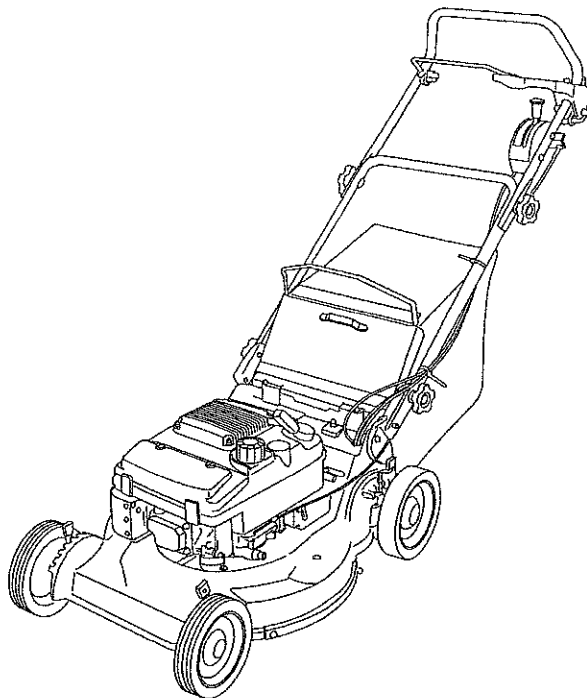


Golden Star LAWN MOWER

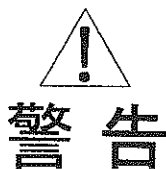
取扱説明書

ゴールデンスター エンジン芝刈機 リッチモアー RCD-5301AL



ご購入時にはエンジンオイルが入っていませんのでエンジン始動前に必ずエンジンオイルを給油して下さい。

— お買い上げありがとうございました。 —



- この取扱説明書は、いつでも使用できる所に大切に保管してください。
- ご使用前に、まずこの取扱説明書をよく読まれ、本機の機能をご理解の上、正しく安全に使用くださるようお願い致します。




頑丈・安心・日本製

目 次


	項
1. 安全にお使いいただくために	2~3
2. 危険・警告ラベル貼付位置	4
3. 仕様	4
4. 各部の名称	5
5. 組立	6
1) 開梱	6
2) ハンドル	6
3) 前輪	6
4) 排出カバー	7
5) キャッチャー	7
6) キャッチャーの脱着	7
7) 組立完了	7
6. エンジン始動前の点検	8
1) エンジンオイルの点検	8
2) 燃料の補給	8
3) エアークリーナーの点検	8
4) キャッチャーの点検	9
5) ケーブルの点検	9
6) ハンドル高さ調節	9
7) 各部の締め付けの点検	9
7. エンジンの始動・停止	10
1) 始動	10
2) 停止	10
8. 作業操作方法	10
1)刈高さ調節	10
2) 速度チェンジレバーの操作	11
3) 作業操作	11
4) 芝刈作業	11
9. 点検・整備・調整	13
1) エンジンオイルの交換	14
2) エアークリーナーの点検・清掃	14
3) ブレードの点検・交換	14
4) ケーブルの調整	15
①自走ケーブル	15
②BBCケーブル	15
③スロットルケーブル	15
5) 点火プラグの清掃	16
6) 燃料フィルター・燃料タンクの清掃	16
7) キャブレター内のオイル抜き	17
10. 長期間保管する場合	17
11. 本機の異常と対策	18

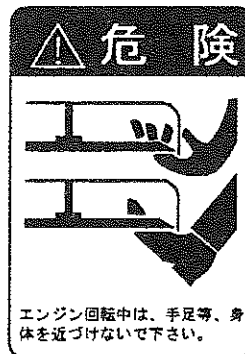
1. 安全にお使いいただくために

この取扱説明書では『危険』『警告』『注意』の警告事項について、次のように定義しています。

 危険	・誤った取扱いをした時に、 <u>重傷または死亡につながる重大事故が発生する可能性があるとき</u>
 警告	・誤った取扱いをした時に、 <u>重大な傷害を受ける事故が発生する可能性があるとき</u>
 注意	・誤った取扱いをした時に、 <u>軽傷または中程度の傷害をうけ、財物の損壊等につながる事故が発生する可能性があるとき</u>

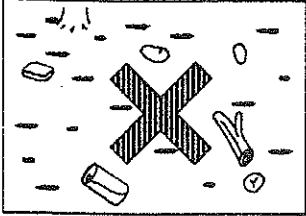
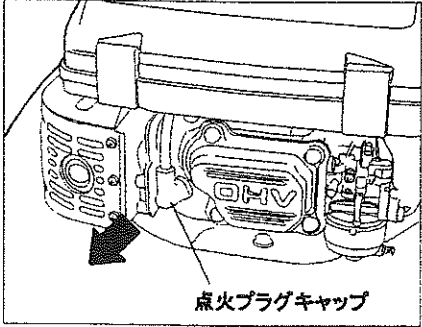
本機のご使用前に、以下の危険、重要警告及び注意事項をよくお読みいただき、理解し必ず守って下さい。

 危険	人が死亡または重大な傷害を負う場合がありますので、絶対にやめて下さい。
<p>1. エンジン回転中に、<u>フレーム下部には手・足等身体を近づけないでください。</u></p> <ul style="list-style-type: none">・回転するブレードで手・足等身体を切断、もしくは巻き込んで重大な人身事故をまねきます。	
<p>2. <u>傾斜地での作業はしないで下さい。</u></p> <ul style="list-style-type: none">・傾斜地での作業（使用）をされますと、本機がバランスを保つことができず、転倒し事故が発生する恐れがあります。	
<p>3. <u>芝刈作業以外には使用しないで下さい。</u></p> <ul style="list-style-type: none">・本機は芝生を刈るために設計・製造されています。	
<p>4. 未成年の方による操作は、<u>保護者の監督下でない限りおやめ下さい。</u></p>	
<p>5. 本機の<u>操作方法をご存じない方、または理解出来ない方</u>には使用させないで下さい。</p>	
<p>6. 本機の取扱いの指導を受けていない人や扱いに不慣れな人には、本機を<u>貸さないで下さい。</u></p>	





人が重大なケガを負う場合がありますので、必ず守って下さい。
禁止事項は、絶対にやめて下さい。

1. 作業中は、人や動物を近づけないで下さい。
 - ・作業中は、作業者以外（人や動物）を作業現場周辺に近づけないで下さい。
飛散物で人身事故の恐れがあります。
 2. 作業範囲の石・空き缶・木片などの異物を全て取り除いて下さい。
 - ・高速回転するブレードにあたって飛散する恐れがあり大変危険です。
- 
3. 作業中は、ハンドルをしっかりと持ち、無理に押し走らないで下さい。
 4. 次の場合は、エンジン回転を停止させ、点火プラグキャップを点火プラグより外し、ブレードが停止してから行って下さい。
 - ・点検、修理及び部品交換時
 - ・ブレードの周囲や排出通路に詰まった刈草の除去時
 - ・刈高さ調節時
 - ・キャッチャー脱着時
 - ・ガソリン給油時（エンジンが冷えてから行う）
- 
5. 換気の悪い場所では、エンジンを始動（運転）しないで下さい。
 - ・有害な排気ガスによって中毒の恐れがあります。
 6. ヘルメット等、JIS等の規格に合格した保安帽を着用するとともに手袋、防塵メガネ・耳栓をつけ、足下の保護のため安全靴を履いて下さい。
 7. 長袖、長ズボンの作業服を着用して下さい。

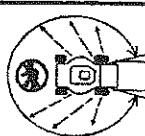
但し、袖、すそのたぶついたものは着用しないで下さい。
 8. 疲れている時、身体の調子の悪い時は使用しないで下さい。
 9. 夜間及び天候の悪い時は使用しないで下さい。
 10. 燃料補給の際には、エンジンが冷え、付近に火気のないことを確認した上で、こぼさないように行って下さい。
こぼした時は、十分に拭き取ってください。
 11. 排出カバーは、必ず定位置に取り付けて作業して下さい。
 - ・カバーが外されている場合は、エンジンを始動しないで下さい。
 - ・身体の一部が巻き込まれ、けがをする恐れがあります。
 - ・飛散物で人身事故の恐れがあります。
 12. 本機のバランスを保つ事ができない足場の悪い作業現場では、作業しないで下さい。
 13. 使用後は、お子様の手の届かない、鍵のかかる所に保管して下さい。
 14. 交換部品は、必ずゴールドenster純正部品をご使用下さい。

2. 危険・警告ラベル貼付位置

警告

- 作業範囲の石・釘・木片等の異物を取除いて下さい。
- 次の場合は、必ずエンジン回転を停止させてプラグキャップを点火プラグより外し、刃物が停止してから行って下さい。
点検・修理・部品交換/刃物の周囲や排出通路に詰まった刈草の除去、刃高調整/燃料給油(エンジンが冷えてから行う。)
- 換気の悪い室内では、エンジンを運転しないで下さい。
- 作業中は事故防止のため、必ずヘルメット・ゴーグル・耳栓・安全服等、保護具を装着して下さい。
- 草中では使わないで下さい。

警告




飛出物がありますので作業中
は人や、動物を周囲近づけ
ないで下さい。

危険



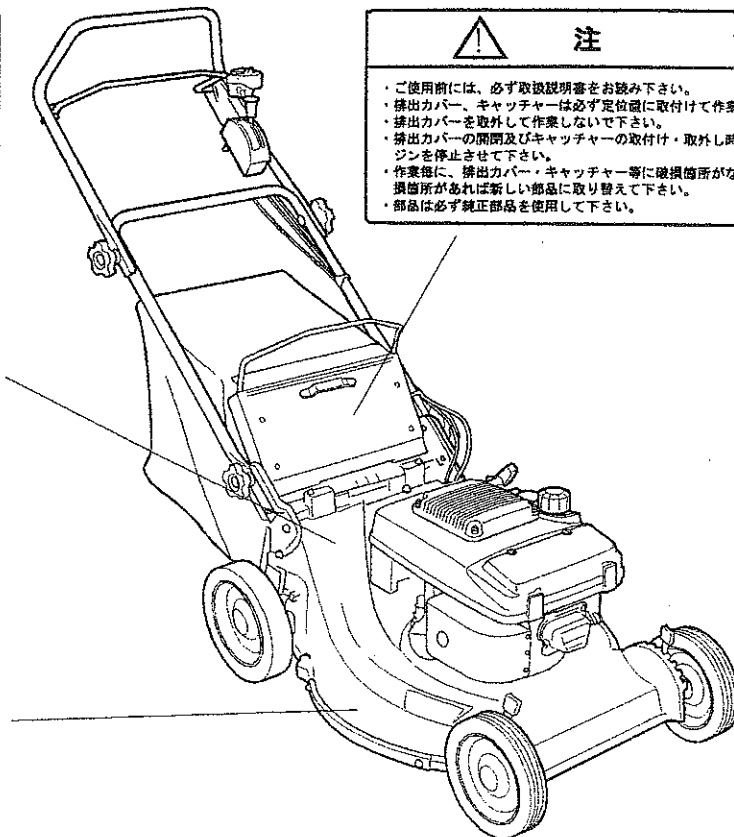
傾斜面での作業はしないで下
さい。転倒し事故が発生する
恐れがあります。

危険



エンジン回転中は、手足等、身
体を近づけないで下さい。

フレーム両側面



注意

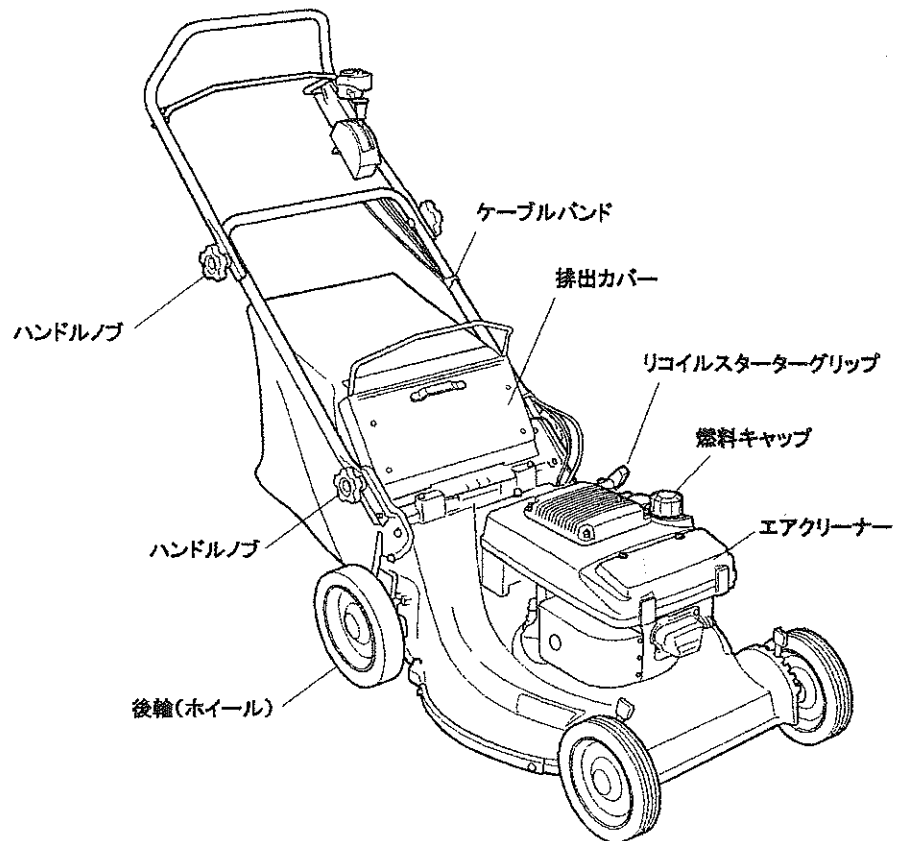
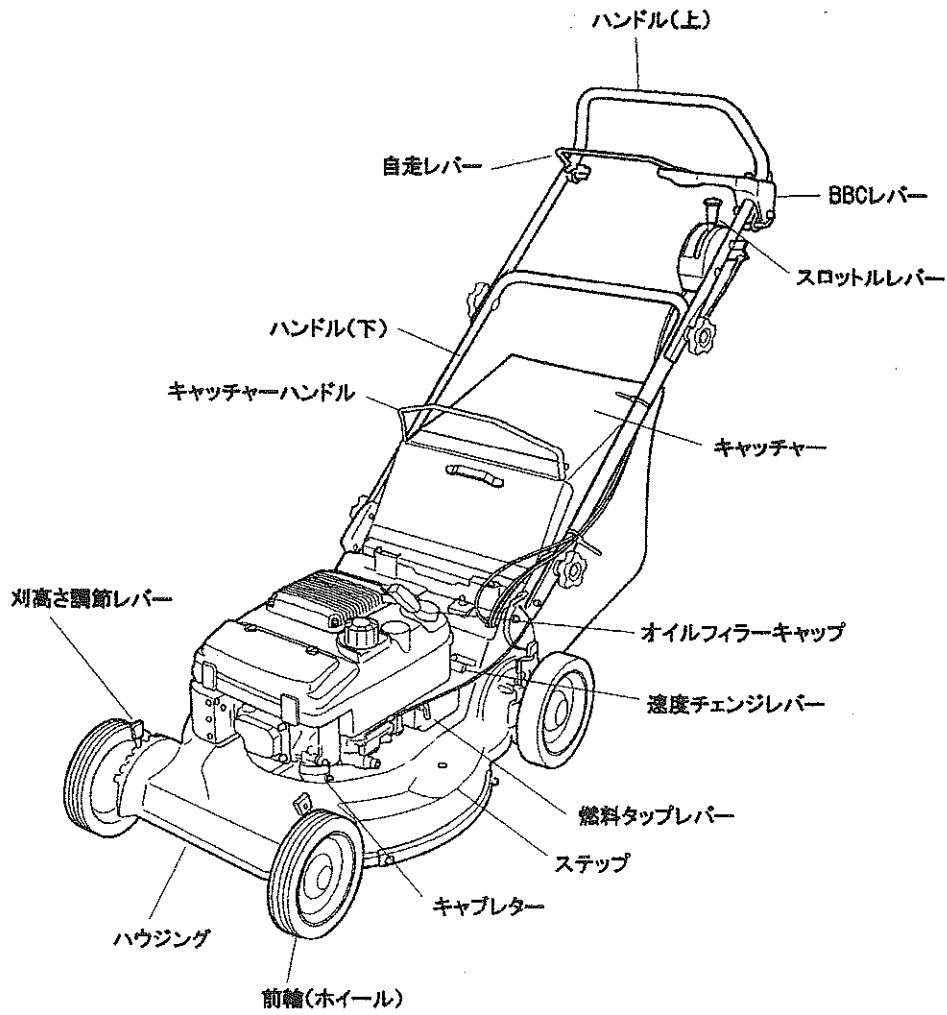
- ご使用前には、必ず取扱説明書をお読み下さい。
- 排出カバー、キャッチャーは必ず定位磁に取付けて作業して下さい。
- 排出カバーを取外して作業しないで下さい。
- 排出カバーの開閉及びキャッチャーの取付け・取外し時には、必ずエンジンを停止させて下さい。
- 作業後に、排出カバー・キャッチャー等に破損箇所がないか調べもし破損箇所があれば新しい部品に取り替えて下さい。
- 部品は必ず純正部品を使用して下さい。

3. 仕様

本機型式	RCD-5301AL
エンジン型式	FC180V
エンジン形式	空冷4サイクルOHV型ガソリンエンジン
総排気量 (cm ³)	182
内径×行程 (mm)	68X50
定格回転数 (rpm)	3,125±75
最大出力 (kW/PS)	3.2/4.4
オイル容量 (ℓ)	0.65
燃料タンク容量 (ℓ)	2.4
点火プラグ	NGK BPR5ES
刈幅 (mm)	530
刈高 (mm)	約15~75(6段階)
自走速度 (km/h)	低速 約3.0 高速 約4.3
キャッチャー容量 (ℓ)	約75
装備寸法(LXWXH) (mm)	約1600X575X1040
乾燥重量 (kg)	約49
同梱品	ドライバー(1) プラグレンチ(1) ハンドルボルト(2) ハンドルノブ(4) 平ワッシャー(2) ケーブルバンド(3) サイドカバー(L)・(R)(各1) 丸小ネジ(4)(各サイドカバーに組み付け)

※本仕様は改良の為予告なく変更する場合があります。

4. 各部の名称



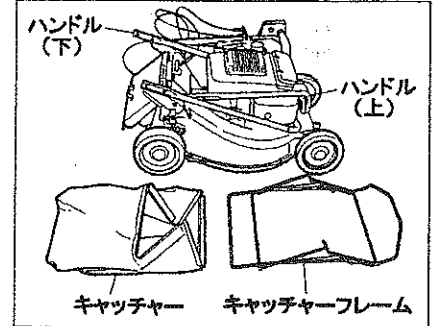
5. 組立

1) 開梱

⚠ 注意

・開梱・組立作業は、必ず、けが防止の為2人以上で行い、作業者は安全靴・手袋を着用してください。

- (1) ダンボール開梱時には、本機は図のような状態となっていますので、組立手順に従って本機を組立て下さい。
- (2) 各部品は、それぞれ重要な機能を持っています。また、安全性確保のため、各部品の機能と役割を十分理解した上で、確実に組立て下さい。

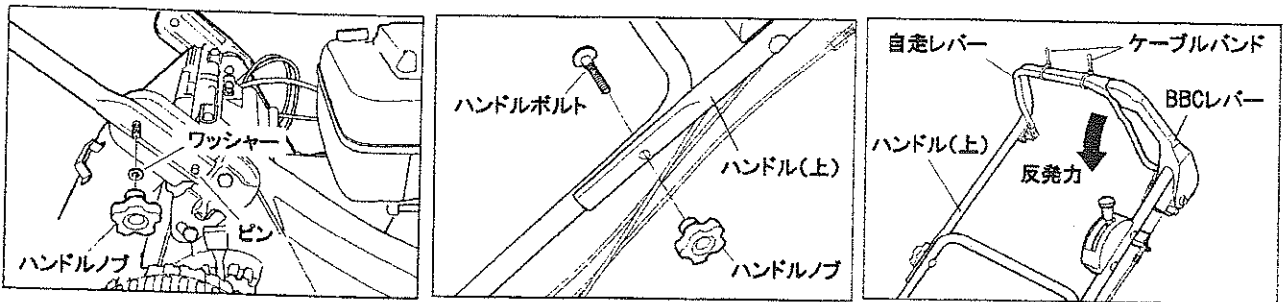


2) ハンドル

⚠ 警告

・3本のケーブルを、ハンドルで巻き込んだり、挟み込んだり、折ったりしないで下さい。本機の性能を十分発揮出来ないばかりか緊急時に事故回避操作が出来なくなります。

- (1) ハンドル(下)の取り付け穴をハンドルブラケットに付いているピンとボルトに挿入し、ボルト側をハンドルノブで確実に締め付けます。
- (2) ハンドル(上)をハンドル(下)にハンドルボルトとハンドルノブで確実に締め付け固定します。この時、3本のケーブルを巻き込んだり、ハンドルに挟み込んだり、折ったりしないで下さい。
- (3) ハンドル(上)(下)を組立後、BBCレバー及び自走レバーをハンドル(上)に固定しているケーブルバンドを取り外します。この時、BBCレバーに反発力がありますので注意して下さい。
- (4) 3本のケーブル(BBC・自走・スロットル)は、付属のケーブルバンドで芝刈作業の邪魔にならない位置に固定して下さい。

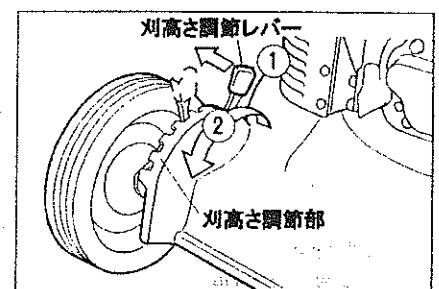


3) 前輪

⚠ 危険

・前輪を定位置にセットされずにブレードを回転させるとブレードが地面に接触して大変危険ですので必ず定位置にセットして下さい。

- (1) 開梱時、前輪はデッキに付いている刈高さ調節部よりも奥側にセットされていますので、必ず刈高さ調節部に前輪をセットして下さい。
- (2) 刈高さ調節レバーをタイヤ側に引き、移動させて刈高さ調節部の溝にセットして下さい。



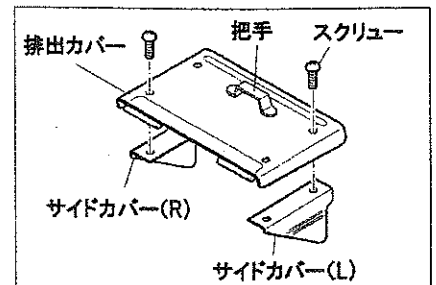
4) 排出カバー



警告

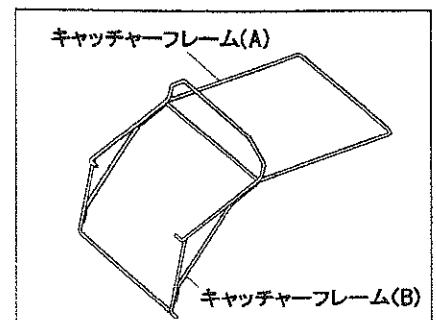
・排出カバーは、作業性・安全性を確保する為に大変重要な役割を果たす部品ですので確実に組立て下さい。

- (1) サイドカバー (L)、サイドカバー (R) をスクリュー各2本で確実に取り付けして下さい。
この時にサイドカバー (L) (R) の取り付け方向に注意して下さい。



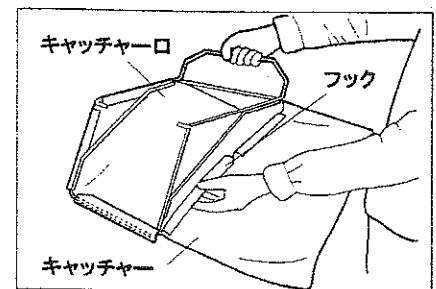
5) キャッチャー

- (1) キャッチャーフレーム (B) のパイプにキャッチャーフレーム (A) を差し込みます。



- (2) キャッチャーにキャッチャーフレームを挿入します。

- (3) キャッチャーの先端についているプラスチック製フックをキャッチャーフレームに確実に引っかけます。
この場合、キャッチャーの上下を間違わないようにして下さい。
またフックは確実にキャッチャーフレームに全て引っかけて下さい。



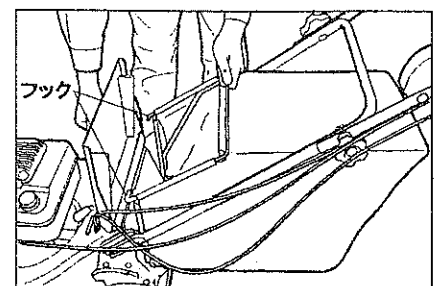
6) キャッチャーの脱着



警告

・必ずエンジン回転を停止させてから行って下さい。

- (1) キャッチャーの取り付けは、排出カバーの把手を持ち上げ、キャッチャーフレームの先端のフックを確実に本体ハウジングのヒンジ部にセットし、排出カバーを下げます。
その時、排出カバーが確実にキャッチャー口にセットされている事を確認して下さい。
- (2) キャッチャーの取り外しは、排出カバーの把手を持ち上げ、キャッチャーハンドルを握り少し持ち上げながら後方へ引いて取り外します。



7) 組立完了

組立が完了しますと、P-5の“各部の名称”の図のようになります。
今一度、組立要領を読みながら、図と比べて下さい。

6. エンジン始動前の点検



警告

・燃料、エンジンオイルの補給時、各部の点検時は、本機を水平にし、安定した場所でエンジンを止め、点火プラグキャップを点火プラグより外して行って下さい。

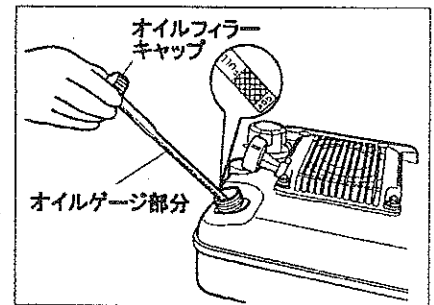
1) エンジンオイルの点検：始動前に行う



注意

・工場出荷時にはエンジンオイルを入れていませんので、使用前に必ずエンジンオイルを規定量まで入れて下さい。

- (1) オイルフィルターキャップを抜き取り、オイルを規定量“0.65ℓ”をゆっくりと入れて下さい。
- (2) 点検は、オイルフィルターキャップを給油口に差し込み、そして抜き取ってエンジンオイル量を点検します。
この時オイルフィルターキャップは締め込まないで下さい。
- (3) オイルの給油容量はオイルゲージ部分にある文字“ADD”と“FULL”の中間位置にオイルが来るようにして下さい。
“FULL”の線を越えない(入れ過ぎ)ようにして下さい。

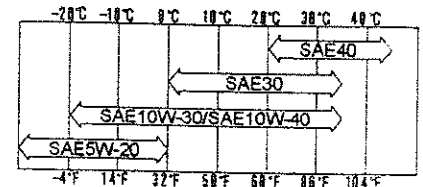


推奨エンジンオイル

API サービス分類：SF、SG、SH または SJ

オイル粘度

作業場所の温度に応じて、右記の粘度を選定して下さい。



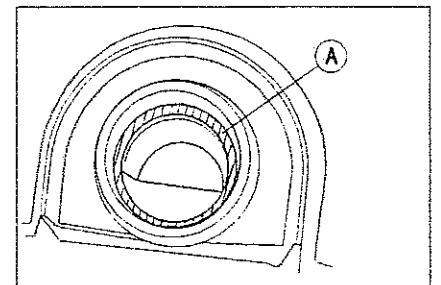
2) 燃料の補給



警告

・周辺は火気厳禁にして下さい。
・発火の恐れがあるので、エンジンが冷えてから行って下さい。
・ガソリンをこぼさない事。こぼれた場合は、完全に拭き取って下さい。

- (1) 燃料は、無鉛レギュラーガソリンを使用して下さい。
- (2) 燃料タンクキャップを給油口から取り外し、燃料をゆっくりと燃料タンクに注ぎ込んで下さい。
- (3) 燃料が給油口の給油限界面④に達したら給油を止めて下さい。



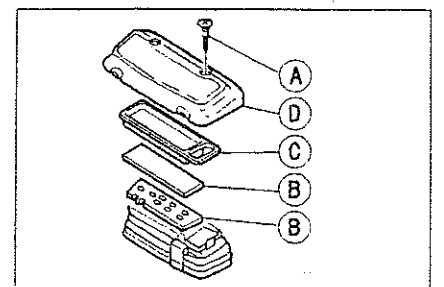
3) エアークリーナーの点検



注意

・エアークリーナーが目詰りをすると、出力不足や燃料消費が多くなるので、定期的に清掃して下さい。

- (1) キャップ①ボルト②を取り外してろ紙エレメント③とスポンジエレメント④を取り出して下さい。
- (2) スポンジエレメント④は石鹼液で洗浄した後、水洗いをし、十分乾燥させて下さい。
新しいエンジンオイルに浸した後、固く絞って余分なオイルを取り除いて下さい。
- (3) 紙のろ過部③は、軽く叩いて付着しているホコリを落として下さい。
*特にホコリの多い場所での使用は、10時間毎に清掃して下さい。



4) キャッチャーの点検



・キャッチャーがすり切れたり、破れたりしていますと、飛散物による人身事故の恐れがありますので芝刈作業前に必ず点検して下さい。

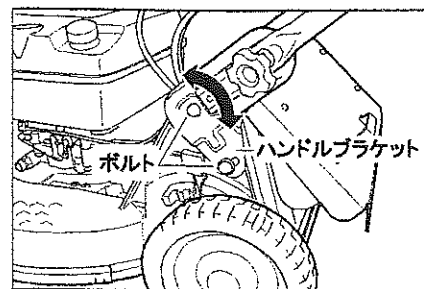
- (1) キャッチャーがキャッチャーフレームに確実に取り付けられているか確認して下さい。
- (2) キャッチャーが定位置に確実にセットされているかどうか確認して下さい。
(P-7キャッチャー脱着の項を参照して下さい。)
- (3) 目詰り・すり切れ・穴があいていないか又、縫目がやぶれていないか点検して下さい。

5) ケーブルの点検

- (1) 各ケーブル (BBC・自走・スロットル) が正しく調整されているかを点検します。正しく調整されていない場合は、調整して下さい。(P-15ケーブルの調整の項を参照して下さい。)
- (2) 各ケーブルの折れ、ヨジレ等がないことを点検して下さい。

6) ハンドル高さ調節

- (1) ハンドルブラケットを固定しているボルト各2本を左・右側とも緩めます。
- (2) ハンドルを上下方向に動かし作業を行いやすい高さに調整します。
- (3) 調整後は必ず、ハンドルの高さが左右同じ高さになっていることを確認の上、左右のハンドルブラケットのボルト各2本を確実に締め付けて下さい。



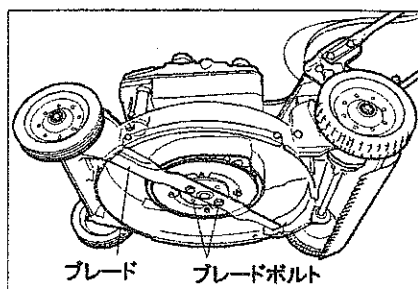
7) 各部の締め付けの点検



・各部のネジ類の脱落やゆるみがないか、確認して下さい。
特にブレードボルトを確実に締めて下さい。
締め忘れがあれば本機の異常振動または、高速回転のブレードが外れ重大な人身事故をまねきます。



・本機を傾斜させる必要が生じた場合は、必ず燃料タップレバーを閉じ、キャブレター側を上側にして傾斜させて下さい。



7. エンジンの始動・停止

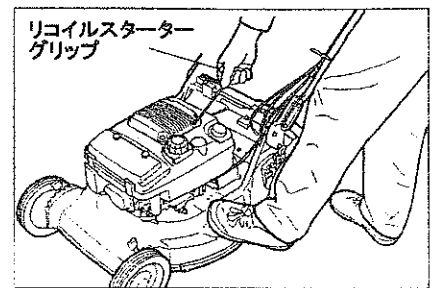
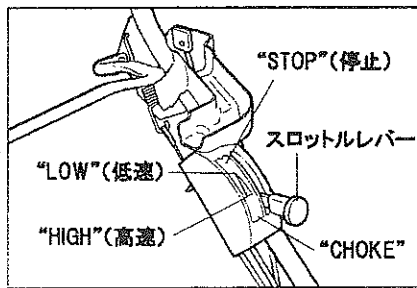
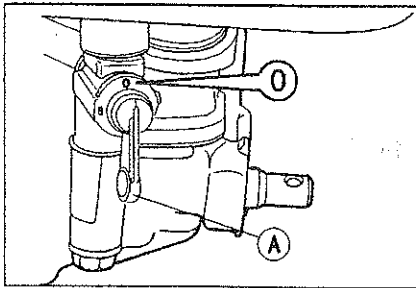


警告

・換気の悪い場所では、エンジンを始動（運転）しないで下さい。

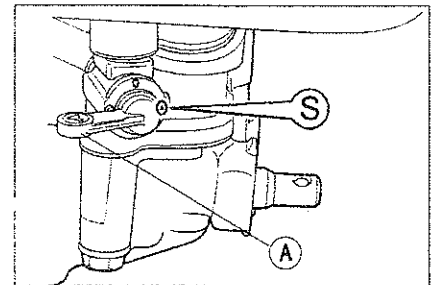
1) 始動

- (1) 燃料タンクの燃料タップレバー④を“O”（開く）の位置にして下さい。
- (2) スロットルレバーを“CHOKE”（チョーク）の位置に合わせます。エンジンが暖まっている時は“LOW”の位置に合わせます。
- (3) デッキのステップに足を乗せ、芝刈機をしっかりと押え付けて、必ず、BBCレバー・自走レバーが戻って（切）いる事を確認してからリコイルスターターグリップを重くなる所まで引き、一旦戻してから勢いよく引いて下さい。
- (4) 始動後、エンジンの調子を見ながら“LOW”の位置に戻し、約2～3分間の暖機運転を行って下さい。始動直後は、エンジン各部にオイルがゆきわたっていませんので必ず暖機運転を行って下さい。
- (5) 芝刈作業の場合はスロットルレバーを“HIGH”の位置に合わせて下さい。



2) 停止

- (1) エンジンの停止は、高速回転中をさげ、まず、スロットルレバーを“LOW”の位置に戻し、エンジンをアイドリング状態で約1分間運転します。
- (2) スロットルレバーを“STOP”の位置にします。
- (3) 燃料タップレバー④を“S”（閉じる）の位置にして下さい。



8. 作業操作方法

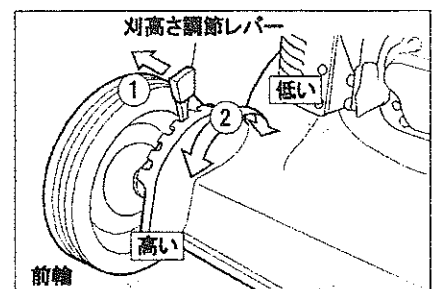
1) 刈高さ調節



警告



・刈高さ調節はスロットルレバーを“STOP”の位置にして必ずエンジン回転を止め、点火プラグキャップを点火プラグより外し、ブレードの回転が停止してから行って下さい。


- (1) 刈高さ調節レバーによって15～75mmまで6段階に刈高さが調節できます。刈高さ調節レバーをタイヤ側に引き、移動させて溝に入れて下さい。
- (2) 全車輪とも同一高さに調節して下さい。
刈高さは、前輪・後輪ともに刈高さ調節レバーを本機中心部（エンジン側）に移動させると低くなり本機外側に移動させると高くなります。
- (3) 刈高さ調節レバーが確実に溝部に入っているか必ず確認して下さい。



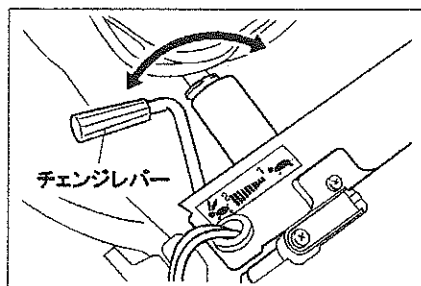
※ 芝刈作業現場の条件によって刈高さは多少変化する事が有ります。



2) 速度チェンジレバーの操作

芝刈機を  または  に合わせます。

 警告	・速度チェンジレバーは、必ずエンジンを停止して、確実に操作して下さい。
---	-------------------------------------


・芝刈作業現場の状態、作業される人の歩行速度に合わせて速度チェンジレバーを調節して下さい。



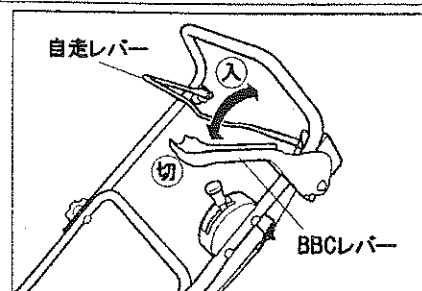
位置	速さ (km/h)
	約 3.0
	約 4.3


*エンジン回転数 3,125rpm 時

3) 作業操作

 警告	・作業中は事故防止の為、取扱説明書の危険/警告/注意の項、及び本機の危険/警告/注意ラベルの指示に従って下さい。
---	--


- (1) エンジン始動要領に従ってエンジンを始動して下さい。
- (2) スロットルレバーを“HIGH”の位置にします。
- (3) 自走レバーを手前に引くと芝刈機が走行し、放すと芝刈機は停止します。
- (4) 最初は、自走レバーのみの操作で芝刈機を走行させ、芝刈機全体の感じをつかんで下さい。




 注意	・BBCレバーは、確実に引ききった位置で保持して下さい。不完全な位置で操作されますと、BBCが半クラッチ状態となり、BBC焼付や異常摩耗の原因となり故障します。
---	--

- (5) 自走レバー・BBCレバーは、一気に引ききって作業するようにして下さい。(途中で止めたり、ゆっくり引きますと故障の原因となります。)
- (6) 作業をする場合は、必ず最初にBBCレバーを手前に引ききって、エンジン回転が十分に上がって安定してから自走レバーを手前に引いて作業を開始して下さい。
※BBCとは、ブレードを回転・停止させる為のクラッチ部品の事を言います。

4) 芝刈作業

 警告	・作業中は、人や動物を近づけないで下さい。 ・作業範囲の石・空き缶・木片などの異物を取り除いて下さい。
---	--

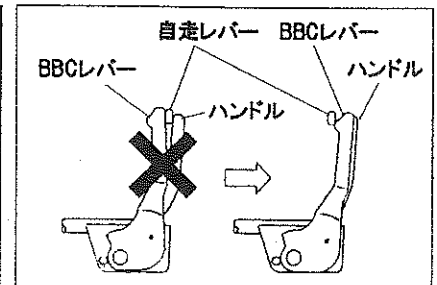
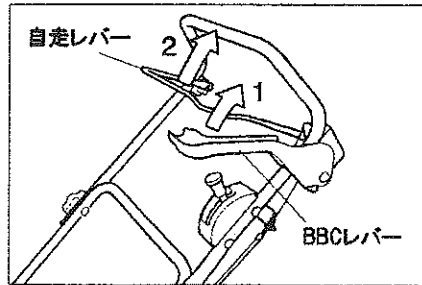
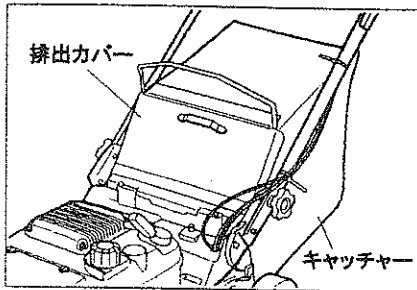
 注意	・芝刈作業は、ブレード回転が十分に上昇してから行って下さい。 ・長く伸びた芝生を刈り取る場合は、いきなり短く刈り込むと芝生をいためる原因となりますので、最初、刈高さを高くし、日をおいて順次刈高さを低くして行って下さい。
---	--

- (1) 芝刈作業範囲の石・空き缶・木片などの異物を取り除いて下さい。
- (2) エンジン始動要領に従ってエンジンを始動して下さい。
- (3) スロットルレバーを“HIGH”の位置にします。

⚠ 危険	<ul style="list-style-type: none"> ・排出カバーが確実にキャッチャー口を塞いでいる事（隙間のない状態）を確認してからBBCレバーを操作して下さい。 ・BBCレバーを固定した状態で使用しないで下さい。 本機は、緊急時にBBCレバー（自走レバー）を握っている手を放せば、BBCレバーが戻り、ブレード回転が止まるように設計されています。
-------------	--

⚠ 注意	<ul style="list-style-type: none"> ・必ずBBCレバーを最初に引いてから自走レバーを握って下さい。半クラッチ状態や短い時間で頻繁にBBCを入り切りしますとBBCが異常な熱を持ち、BBCの焼付やエンジン停止の原因となりますので注意して下さい。
-------------	--

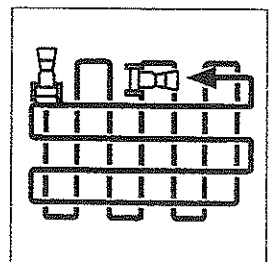
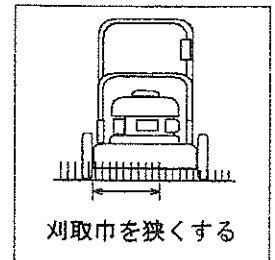
- (4) BBCレバーを引いてエンジン回転が十分上って安定したところで、自走レバーを握って芝刈作業を行って下さい。（レバーの構造上、BBCレバーを引いてから自走レバーを握ることでBBCレバーを定位置で保持できます。）



- (5) 刈高さや芝刈機の走行スピードは、芝刈現場の状態に合わせて下さい。無理に押して走らずに足元に十分注意し、ハンドルを両手でしっかりと握って芝刈作業を行って下さい。

芝刈作業時にエンジン（ブレード）回転が下がって作業ができない場合があります。この場合は次の方法によって作業を行って下さい。

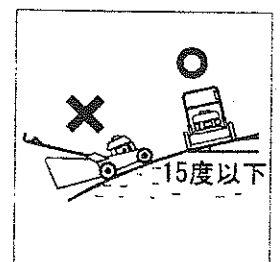
- ・エンジン（ブレード）の回転回復後、再度作業を行う。
- ・刈取巾を狭くする。
- ・刈高さを高くする。
- ・刈取速度を遅くする。
- ・自走レバーを操作せずに手押しでゆっくり作業する。
- ・満杯になっているキャッチャー内の芝生を捨てる。
- ・芝排出口通路に詰っている芝生を取り除く。



- (6) 方向転換はBBCレバー及び自走レバーを放し、ハンドルを押し下げ前輪を浮かせぎみで行います。
一通り刈り終えますと、今までと直行する方向で刈り込めば刈跡がきれいになります。

⚠ 危険	<ul style="list-style-type: none"> ・本機が15度以上傾く斜面では使用しないで下さい。
-------------	---

- (7) 斜面での作業は上下方向ではなく横方向（等高線方向）で行って下さい。ただし、横方向（等高線方向）で作業される場合でも本機が15度以上傾く場合、及び足場の悪い場所は、危険ですので使用しないで下さい。



9. 点検・整備・調整



- ・各点検・調整は事故防止の為、必ず行って下さい。
- ・必ずエンジンを停止させ、点火プラグキャップを点火プラグから外し、点検・整備・調整を行って下さい。
- ・ケガ防止の為、手袋・防塵メガネ・保安帽・安全靴を着用して下さい。

(但し本書に指示がある場合は、エンジンを始動させて、その機能を確認して下さい。)

点検項目	作業時間	点検整備時期				
		作業毎	25時間毎	50時間毎	100時間毎	300時間毎
エンジンオイル	点検	○				
	交換			※1 ○		
エアークリーナー エレメント	点検	○				
	清掃		※2 ○ スポンジ		※2 ○ ろ紙	
燃料やエンジンオイル の漏れ	点検	○				
冷却風取り入れ口 (リコイルスターター)	点検	○				
	清掃	○				
コントロールパネル	清掃	○				
ブレード及び ブレードボルト	点検	○				
BBC機能	点検	※5 ○				
キャッチャー	点検	○				
各部のボルト・ナット	点検	○				
BBCケーブル	点検	○				
	調整			※3 ○		
自走ケーブル	点検	○				
	調整			※3 ○		
スロットルケーブル	点検	○				
	調整				※3 ○	
燃料タップフィルター	清掃			○		
点火プラグ電極	清掃				○	
	隙間調整				○	
バルブ隙間	点検					※4 ○
	清掃					※4 ○
シリンダー・シリンダー ヘッド外観	清掃					※4 ○
燃焼室	清掃					※4 ○
バルブのシート面摺り 合わせ	点検					※4 ○

※1 初回のみエンジン使用5時間後に交換し、その後定期交換して下さい。



※2 特にホコリの多い所での作業のときは、頻りに清掃して下さい。

※3 初回のみ使用5時間後に調整を行い、その後定期的に調整して下さい。

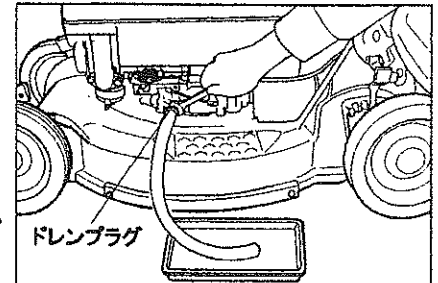
※4 この点検項目は、特殊工具と整備技術を必要としますので、販売店へご依頼下さい。

※5 エンジンが回転している場合BBCレバーを握るとブレードが回転し、BBCレバーをはなすとブレード回転が停止する機能の点検です。

1) エンジンオイルの交換

 警告	・エンジンオイルの交換は、エンジン・エンジンオイルが冷めてから行って下さい。火傷の恐れがあります。
 注意	・ドレンプラグを必要以上に締め付けないで下さい。クランクケースが破損する恐れがあります。(指定締め付けトルク：約 18N・m (1.8kg f・m))

- (1) 本機を水平な場所に置いて下さい。
- (2) オイルを受ける容器を用意して下さい。
- (3) ビニールホースをドレンプラグに差し込みます。
- (4) オイルフィルターキャップを給油口から外し、ドレンプラグを緩めるとオイルが出てきます。(完全にドレンプラグを抜く必要はありません。)
- (5) 古いオイルが完全に抜けると、ドレンプラグを確実に締め付けて下さい。
(締め付けトルク 18N・m (1.8kg f・m) で締め付けて下さい。それ以上の力で締め付けるとクランクケースが破損します。)



- (6) 新しいオイル (SAE10W-30 もしくは SAE30、または、作業温度によって P-8 の表を参考に使用して下さい。) を定量給油して下さい。オイルゲージは、ねじ込まず差し込んで確認します。
- (7) オイルフィルターキャップを給油口に緩まないように締め付けます。


※交換後のエンジンオイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないで下さい。オイルの処理方法は法令で義務付けられています。法令に従い適正に処理して下さい。不明な点はオイルをお買い上げになったお店にご相談の上処理して下さい。

2) エアークリーナーの点検・清掃

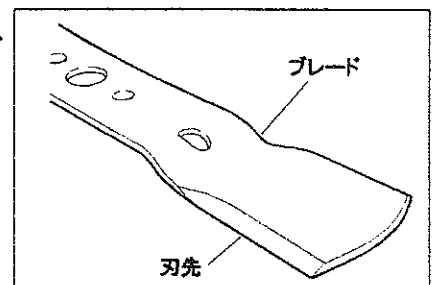
エアークリーナーが目詰まりをおこすと、エンジン出力、回転の不足や燃料消費が多くなりますので、定期的に点検・清掃をするようにして下さい。

点検・清掃の方法は、P-8 エンジン始動前の点検項目のエアークリーナーの項目を参照して下さい。

3) ブレードの点検・交換

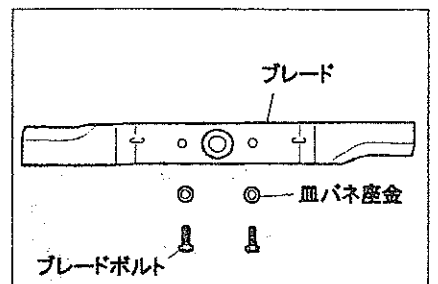
 警告	<ul style="list-style-type: none"> ・作業前に、必ずブレードを点検し“割れ”“曲がり”“摩耗”等異常があれば、新品と交換して下さい。作業中に、ブレードが石・金属・木片等に当たった場合も同様に点検して下さい。 ・ブレードボルト等も同時に点検し“摩耗”“破損”があれば新品と交換して下さい。 ・ブレード・ブレードボルト等交換部品は、必ず、ゴールデンスター純正部品をご使用下さい。
---	---

- (1) エンジン回転を停止させ、点火プラグキャップを点火プラグより外し、燃料タプレバーを閉じ、けが防止の為、革手袋・安全靴・ヘルメットを着用して下さい。
- (2) 本機を横転させる場合には、必ずエンジンのキャブレターが上側になるように横転 (傾斜) させます。
- (3) ブレードを取り外し“摩耗”“破損”の状態を点検して下さい。
(ブレードボルトは右ねじですので、左方向にボルトを回すと緩みます。)



- (4) ブレードに“割れ”“曲がり”“摩耗”等異常があれば、新品と交換して下さい。

研磨する場合は、刃先をヤスリ、グラインダー等で当初の角度をそこなわないように注意し、必ずブレードの左右のバランスが均等になるように研磨して下さい。



- (5) ブレードの取り付けの際には、2本のブレードボルトに皿バネ座金を必ず通し、緩まないように確実に締め付けます。
(指定締め付けトルク：約 44~49N・m (4.5~5.0kg f・m))

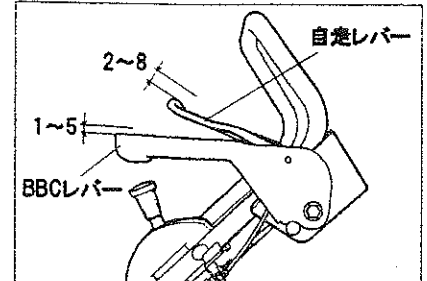
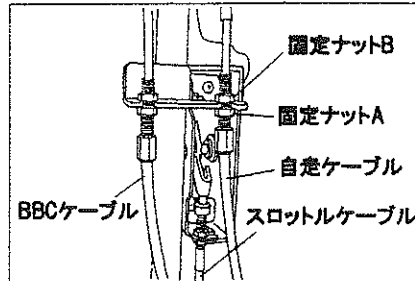
4) ケーブル調整

① 自走ケーブル

▲ 注意

・自走ケーブルの調整が不十分ですと、ギヤケース内の走行クラッチがすべて走行出来ません。

- (1) 調整は固定ナット A・B を緩めて、固定ナット B をブラケットから十分離します。
- (2) 固定ナット A を回し、自走レバー先端の遊びが 2~8mm になるように調整します。
- (3) 調整後、固定ナット B を確実に締め付けます。
- (4) エンジンを始動し、自走レバーを握ると本機が走行し、放すと本機が止まることを確認して下さい。

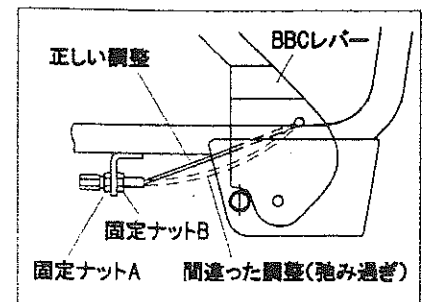


② BBCケーブル

▲ 注意

・BBCケーブルの調整が不十分ですと、刈り取りができなかったり BBC の焼付の原因となります。

- (1) 調整は固定ナット A・B を緩めて、固定ナット B をブラケットから十分に離します。
- (2) 固定ナット A を回し、BBCレバーの先端の遊びが 1~5mm になるように調整して下さい。
- (3) 調整後、固定ナット B を締め付けます。
- (4) エンジンを始動し、BBCレバーを握るとブレードが回転し、放すとブレードが止まることを確認して下さい。

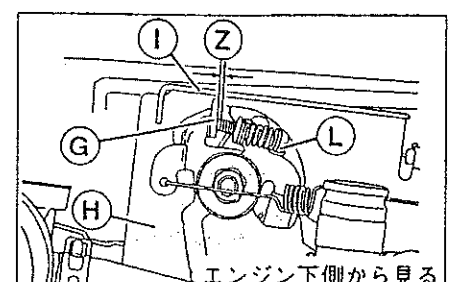
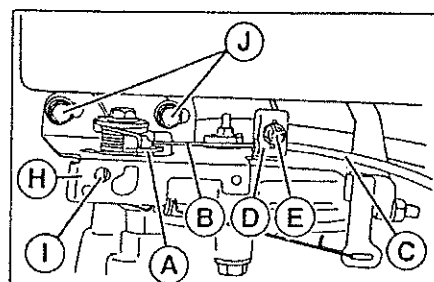
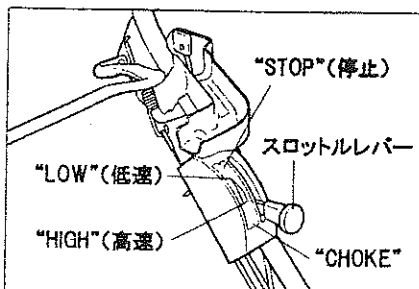


③ スロットルケーブル


▲ 警告

・スロットルケーブルの調整が不十分ですと、緊急時にエンジンの停止が出来なくなります。

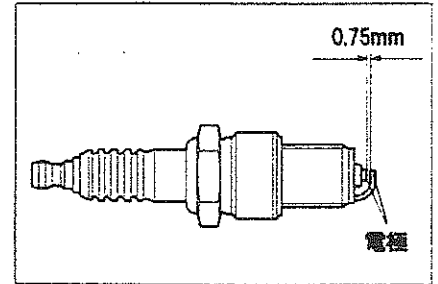
- (1) 本機のスロットルレバーを“HIGH”(高速)の位置にし、スピードコントロールレバー④の折り曲げ部⑤がコントロールプレート⑥の穴⑦の右側にある事を確認してから外径が6mmのボルトまたはピンをこの穴に差し込んで下さい。
- (2) スロットルケーブルの固定ナットを緩めスピードコントロールレバー④とコントロールプレート⑥が6mmのピンで固定されるように調整して下さい。
- (3) スロットルケーブルの調整後は、必ず固定ナットを確実に締め付けて下さい。
- (4) 6mmのボルトあるいはピンをコントロールプレート⑥から抜き取ってください。
- (5) エンジンを始動し、スロットルレバーを“STOP”の位置にするとエンジンが停止することを確認して下さい。もしエンジンが停止しない場合は、上記の要領で再度調整をやり直して下さい。又、スロットルレバーが“LOW”の位置でエンジンが停止するのもスロットルケーブルの調整不良が原因です。




5) 点火プラグの清掃


 注意	<ul style="list-style-type: none"> ・電極が汚れたり、電極の隙間が不適當ですと、完全な火花が飛ばなくなりエンジン回転が不均一になって、エンジン不調の原因となります。 ・点火プラグの清掃・調整はエンジンが冷えてから行って下さい。 ・点火プラグの取付けは、ネジ山をつぶす恐れがありますので、初めは指で軽くねじ込み（5～6山）、次にプラグレンチで確実に締め付けて下さい。
---	--

- (1) 点火プラグキャップを点火プラグより外し、プラグレンチで点火プラグをエンジンより取り外します。
- (2) 点火プラグに付着したカーボン等をプラグクリーナーもしくは、ワイヤーブラシ等で落として下さい。
- (3) 電極隙間を0.75mmに調整します。

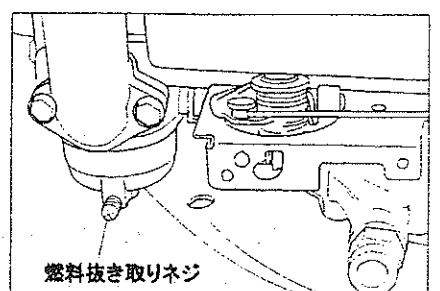
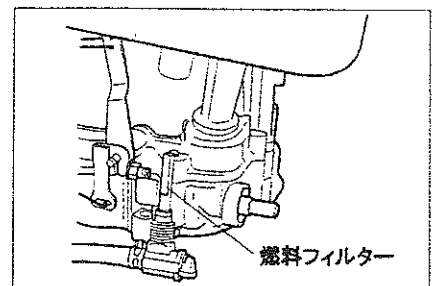
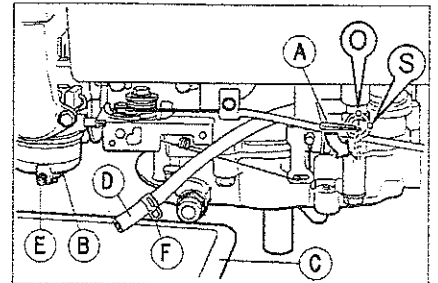


6) 燃料フィルター・燃料タンクの清掃


 警告	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺を火気厳禁にして下さい。 ・下記の項目は、必ずエンジンを停止させ点火プラグキャップを点火プラグから外し、点検・整備・調整を行って下さい。
---	--


 注意	<ul style="list-style-type: none"> ・燃料フィルター・燃料タンク内に不純物が堆積しますと、キャブレター詰まりの原因となり、エンジン不調となる場合があります。
---	--

- (1) 燃料タップレバーが“S”（閉じる）になっているか確認して下さい。
- (2) キャブレター⑥の下付近に適当な容器を置いて下さい。
- (3) キャブレターから燃料チューブ⑦を取り外し、容器に置いてから燃料タップレバーを“O”（開く）の位置にして燃料タンク内の燃料を容器に抜き取って下さい。燃料が抜き終われば燃料タップレバーは“S”（閉じる）の位置にして下さい。
- (4) リコイルスターターの袋ナット（4個）、平ワッシャー（4枚）リコイルスターターそしてカラー（4個）をエンジンから取り外して下さい。
- (5) カバー（燃料タンクと一体型）を動かして燃料タップを左方向に回して燃料タンクから取り外して下さい。
- (6) 燃料フィルターを高引火点の洗浄液に浸してから圧搾空気でごみや汚れを落として下さい。
- (7) 燃料フィルターが乾燥したら分解した時と逆の順で各部品を再組み付けして下さい。




7) キャブレター内のオイル抜き

 警告	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺を火気厳禁にしてください。 ・下記の項目は、必ずエンジンを停止させ点火プラグキャップを点火プラグから外し、点検・整備・調整を行ってください。
---	--

 注意	<ul style="list-style-type: none"> ・キャブレター内にオイルが混入しますと、エンジン始動が困難になります。この場合は下記の要領でキャブレター内のオイルを抜いて下さい。
---	---

- (1) キャブレターの下にオイルを受ける為の容器を用意します。
- (2) キャブレターの燃料抜き取りネジ⑥を緩めます。燃料抜き取りネジ⑥を緩めると、キャブレター下側よりエンジンオイル等（ガソリン）が流れ出ます。
エンジンオイルが流れ終わるとガソリンが流れ出てきます。確実にガソリンが流れ出るのを確認できましたら、燃料抜き取りネジ⑥を必ず締めて下さい。（こぼれたガソリン等は完全に拭き取って下さい。）
- (3) キャブレター内のオイル抜きが終了しましたら、エンジン始動手順に従って始動して下さい。

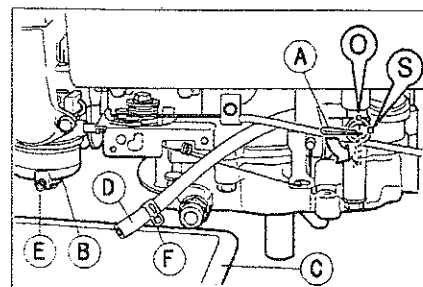
*尚、数回の操作を行ったにもかかわらずエンジンが始動しない場合はお買い上げいただいた販売店に相談して下さい。

 警告	<ul style="list-style-type: none"> ・本機の修理は、必ずお買い求めの販売店へお申し付け下さい。本機に異常を感じた時は、ただちに作業を中止して下さい。当社指定のサービスマン以外、取扱説明書の説明以外の分解修理及び改造は行わないで下さい。 ・ゴールドenster純正の部品、付属品を使用して下さい。本機指定の純正部品以外、使用しないで下さい。
---	--

10. 長期間保管する場合

エンジンを停止させ、点火プラグキャップを点火プラグから外して下さい。

- (1) 燃料タップレバー④を“S”（閉じる）の位置にし、キャブレター⑤の下付近にてきとうな容器⑦を置いて下さい。
- (2) キャブレターから燃料チューブ⑥を取り外し、容器に置いてから燃料タップレバーを“O”（開く）の位置にして燃料タンク内の燃料を容器へ抜き取って下さい。
- (3) キャブレターの燃料抜き取りネジ⑥を緩めてキャブレター内の燃料を容器へ抜き取って下さい。燃料が抜き終われば燃料抜き取りネジはしっかり締め付けて下さい。
- (4) 燃料タップレバーを“S”（閉じる）の位置にして、燃料チューブをキャブレターに取り付けてからランプ⑧を燃料チューブに組み付けて下さい。
- (5) 交換の必要な部品は交換し、各部のボルト・ナットを点検し、緩んでいれば確実に締め付けて下さい。
- (6) エンジンオイルを交換して下さい。
- (7) エアークリーナーを清掃して下さい。
- (8) さびやすい部品にグリスかエンジンオイルを塗布して下さい。
- (9) 点火プラグを外し、プラグ穴からエンジンオイルを1 ml程度注油してリコイルスターターグリップを2～3回引いた後、点火プラグを元のように締め付け、リコイルスターターグリップを引いて重くなったところで止めて下さい。
- (10) 本機及びエンジンに付着したゴミ等はきれいに清掃して下さい。
- (11) カバーをかけ、湿気やホコリの少ない風通しの良い場所に保管して下さい。
- (12) 子どもの手が届かない鍵のかかる場所に保管して下さい。



1 1. 本機の異常と対策



・対策を実施する時は、必ず、エンジン回転を停止させてから本書の点検・整備・調整の項の指示に従って下さい。

本機に異常があれば、下表より原因を探り適切な対策を施して下さい。その上でなお異常があるときは、むやみに分解しないで、お買い上げ頂いた販売店またはサービス店へお申しつけ下さい。

状態	原因	対策
エンジンが始動しない。	①ガソリンが無い。	ガソリンを補給する。
	②燃料タップレバーが“O”（開く）の位置にない。	燃料タップレバーを“O”（開く）の位置にする。
	③スロットルレバーが“STOP”位置にある。	スロットルレバーを“CHOKE”位置に動かす。
	④点火プラグから火花が出ない。	点火プラグの清掃・調整もしくは交換。
	⑤エアークリーナーの詰まり。	エレメントの清掃。
	⑥オーバーチョーク。	スロットルレバーを“STOP”の位置にして2～3回リコイルスターターノブを引く。
	⑦キャブレターにオイルが混入している。	キャブレターの燃料抜き取りネジよりオイルを抜く。
エンジンの出力不足及び回転不安定	①燃料系の詰まり。	清掃する。
	②エアークリーナー詰まり。	エレメントの清掃もしくは交換。
	③点火プラグの汚れ。	点火プラグの清掃・調整もしくは交換。
	④スロットル開度不足もしくは、スロットルレバーが“HIGH”の位置にない。	スロットルケーブルの調整、スロットルレバーを確実に“HIGH”の位置に合わせる。
	⑤BBCの作動不良。	BBCケーブルの調整もしくは交換。
	⑥キャッチャーに芝が満杯になっている。	キャッチャー内の芝を捨てる。
	⑦芝排出口通路に芝が詰っている。	詰っている芝を取り除く。
エンジンが停止しない。	①スロットルケーブルの調整不良。	スロットルケーブルの調整。
	②スイッチ端子の不良・汚れ、及びスイッチリード線不良。	調整・清掃及び交換。
エンジンがオーバーヒートしている。	①冷却空気取入れ口やシリンダーファン部にゴミが付着している。	清掃する。
	②エンジンオイルの不足。	オイルを補給する。
	③点火プラグ不良。	交換する。
	④エアークリーナーの詰まり。	清掃する。
本機が異常振動する。	①ブレードが破損もしくは曲がっている。	交換する。
	②ブレードボルトもしくはエンジンを取り付けているボルトが緩んでいる。	ボルトを確実に締め付ける。
マフラーから白煙が出る。	①オイル量過多	オイルを規定量にする。
		エアークリーナーを洗浄する。



製造番号

部品ご入用、故障の場合、その他取扱い上ご不明な点があった場合には、ご遠慮なくお買い上げの販売店にお問い合わせください。

本機を末長くご愛用いただきますようよろしくお願いいたします。

本 社

兵庫県小野市本町10番地 〒675-1372
TEL (0794) 62-2391代 FAX (0794) 63-5211

東京支店

東京都中央区日本橋小伝馬町8番3号 〒103-0001
TEL (03) 3664-8811代 FAX (03) 3664-8860

九州支店

佐賀県鳥栖市養父町473番地2 〒841-0005
TEL (0942) 85-9277 FAX (0942) 84-2700

新潟・三条出張所

新潟県三条市神明町2番1号 〒955-0063
TEL (0256) 32-9971 FAX (0256) 32-9671

KINBOSHI

Corporation

園芸機器総合メーカー

キンボシ 株式会社

3556-1203Z